

熊毛らしさを生かした2学期の特色ある教育活動の展開

ブラッシュアップ熊毛（熊毛の教育のグランドデザイン）の基本的な考え方である「児童生徒の『心を動かす』教育活動を通して、『やればできる』という心を育てる」熊毛地区ならではの学校・家庭・地域社会協働の教育実践が展開されました。

大学生とのオンライン交流（現和小）



現和小は、大学生との交流を通して、子供たちの意欲的な学習活動につなげ、教師を目指す学生にとっても実践的な経験を積むことのできる教育活動を展開しています。

今年度は、関東学院大学と連携し、2回のオンライン学習と1回の対面交流を行いました。

子供たちは、大学生との交流による体験や具体物操作等を通じた算数の面白さに触れ、「頭を使うけど面白い。」「算数がもっと好きになった。」などの感想をもち、思考が広がる意欲的な学習活動となりました。

大学生も「教育実習とは違った経験ができた。」と貴重な時間を過ごしたようです。来校が運動会の時期だったこともあり、運動会当日は、用具係補助としても活躍しました。

今後も子供たちが算数のよさを感じながら自ら考え、主体的に学ぶ活動となるよう関東学院大と連携を深め、継続した取組を展開していきます。

自ら考え行動する（島間小）



島間小は、校舎・体育館の4分の3が土砂災害計画区域に指定されています。そこで「自ら考え行動する子ども」を目指すことが「命を大切にする（守ること）」につながると捉え、防災教育の充実を図っています。

緊急避難は授業中だけとは限らず、いつでも起こりうるものです。島間小では、通常の避難訓練に加え、定期的に15分間の避難訓練を行っています。併せて、関係機関等による防災教室も積極的に取り入れ、避難行動訓練と関連させて行っています。

また、危険箇所の情報を持ち寄り、地域の方と話し合いながら「防災マップ」を作る活動を通して、防災に対する意識の向上も図っています。

今後は地域ぐるみの防災教育を目指し、地域の防災訓練等に参加することや学校を拠点とした防災教育プログラムを地域住民と協働して実施していきたいと考えています。

なりたい自分になる（星原小）



星原小学校では、各学年の発達段階に応じて、周りの人に支えられていることや、自他の役割の必要性を理解し、自分の役割や責任を果たすことで、達成感や有用感を味わえるような教育活動を展開しています。

その一環として、東京オリンピック・パラリンピックの陸上競技の審判を務めた方や青年海外協力隊OBの方を講師に招き、「可能性は無限大であること」「夢を叶えるためには、目指さなければ始まらないこと」等を学びました。

子供たちは様々な活動において目標を設定し、「なりたい自分になる」ことを目指し、挑戦を続けるようになってきました。

今後もこの姿勢がいろいろな場面で活かされるよう声掛け等を工夫しながら、取組を継続していきます。

架け橋期教育の充実（八幡小）



八幡小では、子供の発達や学びの連続性を確保するため、幼稚園が併設されていることを活かした幼小連携を行っています。

幼稚園での遊びや体験をベースとした学びから、座学が中心の学びに戸惑うことがないように日頃から園児による授業参観を行うことによって、交流がイベント的なものにならないようにしています。

また、運動会や避難訓練などの学校行事を幼少一体となり実施することによって、全職員が、就学前の園児一人一人を理解するよい機会となっています。

また、園児やその保護者も授業参観や行事に参加することによって、事前に小学校の様子を知ることができ、小学校生活へのスムーズな移行につながっています。

熊毛地区の学力向上に向けた取組

○ コアスクールプロジェクト

地区内3校〔コアスクール:安原中, エリア推進スクール:中種子中, 中中〕で10月に校内研修(授業参観, 授業研究)が行われました。各校には, 地区内の小学校や他の中学校, 高校からも先生方が参加し, 授業中の生徒一人一人の学びの姿に着目し, 身に付けさせたい資質・能力を育むためにどのような視点や手立てが必要か, 教科の枠を超えて熱心な協議がなされました。

昨年度の指定校の中には, 顕著に成果が表れた学校があります。学力向上の鍵は, ①子供の学びを見取る目, ②教員の組織力, ③共通実践事項を意識した日々の授業の質の向上・・・です。



○ コアティーチャーネットワークプロジェクト

地区内小・中学校から国語と算数・数学の小・中3名ずつの先生方に, ①探究型授業における子供の思考の流れに沿った問題, ②「語彙力」や「読解力」「計算力」などの基礎学力を効果的に育むための指標となる問題づくりに取り組んでもらっています。地区内の学力向上の成果の一因である「探究型授業の実践」の促進と課題である「基礎学力の確かな定着」を踏まえてのものです。

ICTを活用した問題作成にも挑戦しています。この問題を活用することを通して, 各小・中学校で取組の自校化が進むことを期待しています。

体罰の根絶に向けて

体罰は, 法で禁止されている非違行為です。子供たちにとって安心, 安全な場所である学校を体罰によって教師が脅かすことが絶対にあってはなりません。指導の一環とって高圧的になったり, 感情的になり大声で叱責したりするようなことがないように人権感覚, 正しい認識をもち, 指導しましょう。

体罰の根絶に向けて, 「しない。見逃さない。認めない。」の姿勢で大切な子供たち, 同僚を守っていきましょう。



体罰禁止

学校運営の更なる充実を目指して



今年度の地区小中学校教頭研修会は, 県教育庁義務教育課の奥山茂樹指導監をお招きし, 御講話いただきました。リフレクションやコーチングの意義や必要性について学び, 教頭としての役割や求められる資質・能力について研修を深めることができました。また, 中央中学校の金丸正志教頭からは, 学校の情報化指導者養成研修会の研修報告がなされました。午後からは, 学力向上に係る研究協議が行われ, 各校の取組の情報交換や課題に向けての熱心な協議が行われました。

今年度の地区小中学校教頭研修会は, 県教育庁義務教育課の奥山茂樹指導監をお招きし, 御講話いただきました。リフレクションやコーチングの

岳南中学校 研究公開

(“運動大好きかごしまっ子” 育成推進事業推進校)

令和4年10月19日(水)

岳南中学校では, 令和3年度から2年間にわたり鹿児島県「運動大好き”かごしまっ子” 育成推進事業推進校」として, 「他とともによりよく生き, 自ら主体的に行動できる生徒の育成～地域人材を活用した取組を通して～」のテーマのもと, 生徒の体力向上, 運動の日常化を目指し, 研究実践に取り組みできました。

研究公開当日は, 3年生のダンスの授業で, 地域人材の専門的な指導助言, ICT活用, 課題解決に向けた主体的なグループ活動など研究の成果を参観することができました。

ここで得られた研究の成果を情報発信するなどして他の学校にも還元し, 地区内の児童生徒の体力の向上につなげていきたいと思えます。



【グループ活動】



【地域人材の活用】

し求ケ代さに子ので能く変てと教のの的共め 〓う考思るせくに
れめ流だれは供流い力生化いな育学魅な通とり。えわ。る。は家業連本が知手ン絵
ならのかる更た行るのきにるり課習力もすすん▼込ずペ独大。でを続屋。のにス本
い。れ社ら。なちや。育る対。程指でのるるご彼ん吹。特人子あ達第さ彼方取ケ作店
(文て会ここのるが国▼成た応激数が導あのも数かのだきジのを供る成一んはもっさ家
責い観その課生際新がめしし年。要る見の々もデり出を世もば。し位大。多たんヨ、
るや。よ題き紛型求の。いが全領。方はの。〓びしし捲界夢か彼たと賞Mい。のシ今
指導の発ヨうもる争コめ資よ社経面に▼。作をユてたる観中りの人いで〇と▼絵タ話
課か想シな予社なロら質り会過実よ現発多品はしり度がにで作気う四E思御本ケ題
長もが夕時想会どなれ。よのし施る行想角にじ作ま。にあさな品作偉年絵う存をシの

潮流